

## 事業セグメント編

## 2020年度の概況

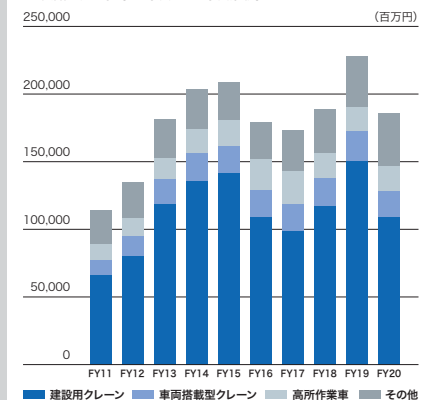
## 製品別売上高

製品別売上高は、新型コロナウイルス感染拡大による世界的な需要低迷の影響もあり、建設用クレーンが1,094億3千万円（前期比72.6%）、車両搭載型クレーンが193億1千4百万円（前期比87.1%）と前期に比べて売上高が減少しました。高所作業車については187億1百万円（前期比104%）、その他の製品については385億9千3百万円（前期比104.4%）と売上高が増加しました。この結果、2020年度の売上高は、1,860億4千万円（前期比81.6%）となりました。

## ■ 製品別売上高(19年度・20年度比較)

	19年度	20年度	比較増減 金額	増減率
建設用クレーン	150,818	109,430	-41,387	-27.4%
車両搭載型クレーン	22,162	19,314	-2,848	-12.9%
高所作業車	17,986	18,701	715	4.0%
その他	36,982	38,593	1,611	4.4%
合計	227,949	186,040	-41,909	-18.4%

## ■ 製品別売上高(11年度～20年度推移)



## 仕向地別売上高

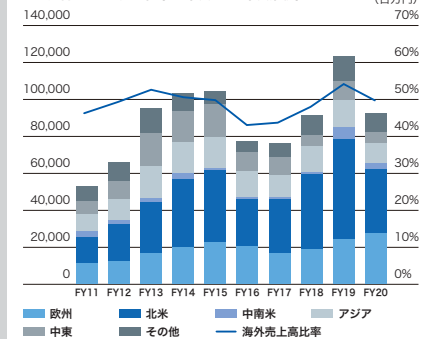
海外における売上高では、欧州においてはDemagクレーン事業を連結したことにより、276億3千1百万円（前期比113.4%）と前期を上回る売上高でした。それ以外の全ての地域では、需要減少の影響もあり、北米350億1百万円（前期比64.6%）、中南米30億9千2百万円（前期比65.9%）、アジア110億1千3百万円（前期比76.5%）、中東58億9千8百万円（前期比57.2%）、その他101億2千6百万円（前期比75.3%）と売上高は減少しました。日本においても、932億7千7百万円（前期比89.2%）と売上高は減少しました。海外売上高比率は、49.9%（前期54.1%）となりました。

## ■ 仕向地別売上高(19年度・20年度比較)

	19年度	20年度	比較増減 金額	増減率
欧州	24,363	27,631	3,267	13.4%
北米	54,163	35,001	-19,162	-35.4%
中南米	6,735	3,092	-3,643	-54.1%
アジア	14,401	11,013	-3,387	-23.5%
中東	10,312	5,898	-4,414	-42.8%
その他	13,444	10,126	-3,318	-24.7%
小計(海外計)	123,421	92,763	-30,658	-24.8%
日本	104,527	93,277	-11,250	-10.8%
合計	227,949	186,040	-41,909	-18.4%
海外売上高比率	54.1%	49.9%		

※その他には、オセアニア、アフリカ、CISを含んでいます。

## ■ 海外仕向地別売上高(11年度～20年度推移)



※日本は含んでいません。  
※その他には、オセアニア、アフリカ、CISを含んでいます。



# 01 建設用クレーン

Mobile Cranes

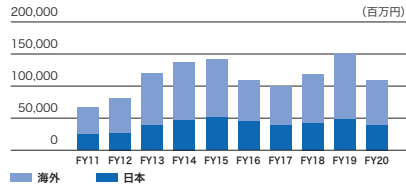
## 売上高

全ての地域において需要が減少したこともあり、日本向け売上高は396億1千5百万円(前期比82.8%)、海外向け売上高は698億1千5百万円(前期比67.8%)となりました。この結果、建設用クレーンの売上高は1,094億3千万円(前期比72.6%)となりました。

### ■ 売上高(19年度・20年度比較)

	19年度		20年度	
	金額	増減率	金額	増減率
日本	47,833		39,615	-17.2%
海外	102,984		69,815	-32.2%
合計	150,818		109,430	-27.4%

### ■ 売上高(11年度~20年度推移)



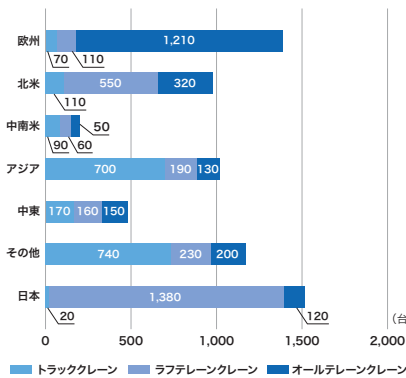
## 需要とシェア(台数ベース)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年の海外市場全体(中国を除く)の建設用クレーン需要は、前期比78.4%と減少しました。タダノ製品の世界全体におけるシェアは、前期の29%から5ポイント減少した24%となりました。

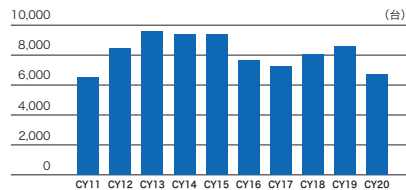
### ■ 需要・シェア(19年・20年比較/暦年ベース)

	需要			シェア	
	2019年1-12月	2020年1-12月	増減率	2019年1-12月	2020年1-12月
欧州	1,650台	1,390台	-15.8%	19%	13%
北米	1,650台	980台	-40.6%	35%	31%
中南米	270台	200台	-25.9%	25%	11%
アジア	1,290台	1,020台	-20.9%	13%	9%
中東	650台	480台	-26.2%	20%	20%
その他	1,240台	1,170台	-5.6%	16%	10%
海外計	6,750台	5,240台	-22.4%		
日本	1,870台	1,520台	-18.7%	55%	54%
合計	8,620台	6,760台	-21.6%	29%	24%

### ■ 市場ごとの機種別需要(20年/暦年ベース)



### ■ 世界需要(11年~20年推移/暦年ベース)



※数値は当社推計(10台単位にて四捨五入)  
 ※ロシア国産は含んでいません。  
 ※中国国産の輸出は含んでいません。  
 ※中国国産の中国市場向けは含んでいません。  
 中国市場における中国国産の需要推移は次の通りです。  
 CY12:約2万2千台、CY13:約1万7千台、CY14:約1万4千台、CY15:約9千台、  
 CY16:約9千台、CY17:約2万台、CY18:約3万2千台、CY19:約4万2千台、  
 CY20:約5万4千台

## 製品紹介

### オールテレーンクレーン



高速道路や橋梁工事などのインフラ整備、大型プラントやビルといった建築やメンテナンス工事などの現場などで活躍する大型クレーンです。舗装道路から不整地まであらゆる路面に適応し、大きなクレーン能力を持ちながら全輪操舵機能により小回り性にも優れています。  
 (※)欧州では分解走行が必要ですが、日本での一般道走行時は分解搬送が必要です。

### ラフテレーンクレーン



タダノの技術の粋を集めた主力製品。1つの運転席で走行とクレーン操作が行える自走式クレーンです。不整地や軟弱な地盤でも走行ができるほか、その小回り性を活かし、市街地や狭路などの現場でも活躍しています。海外では主に大規模プラントの建設・メンテナンスに使われています。

### トラッククレーン



### 伸縮ブーム式クローラクレーン



広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリヤの低重心の利点を活かし、荷を吊ったままの走行にもその強さを発揮。高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの設置現場で活躍します。

### ラチスブーム式クローラクレーン



より大きな吊り上げ能力を必要とする現場に適したクレーンです。他のタイプのクレーンよりも大きな吊り上げ能力(最大3,200トン)を備えており、高負荷時にも優れた操作性を保持することができます。その大きさにも関わらず、分解することで輸送が容易で、高まるクリーンエネルギー需要を背景に、風力関連工事をはじめ、世界各地で活躍の場を広げています。



# 02 車両搭載型クレーン

## Truck Loader Cranes

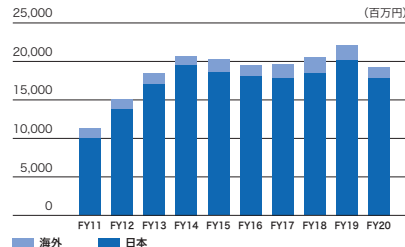
### 売上高・日本台数シェア

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、日本向け売上高は179億2千万円(前期比88.3%)、海外向け売上高は、拡販に注力したものの、13億9千3百万円(前期比74.5%)となりました。この結果、車両搭載型クレーンの売上高は193億1千4百万円(前期比87.1%)となりました。

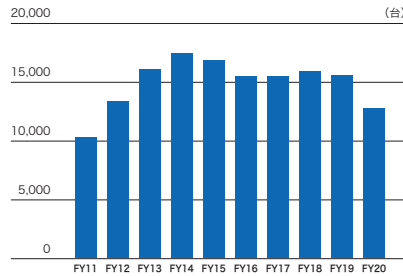
#### ■ 売上高(19年度・20年度比較)

	(百万円)			
	19年度	20年度	比較増減 金額	増減率
日本	20,292	17,920	-2,371	-11.7%
海外	1,870	1,393	-476	-25.5%
合計	22,162	19,314	-2,848	-12.9%

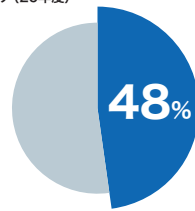
#### ■ 売上高(11年度~20年度推移)



#### ■ 日本需要(11年度~20年度推移)



#### ■ 日本台数シェア(20年度)



### 製品紹介



#### カーゴクレーン



TM-XZ364

運輸業や造園業、建設業など、幅広い業種のお客様の荷役作業にお使いいただいている一番身近なクレーンです。トラックキャブの後ろなどに架装したもので、幅広いトラックへの架装と豊富なクレーンのラインナップを取り揃えて幅広いニーズにお応えしています。



# 03 高所作業車

## Aerial Work Platforms

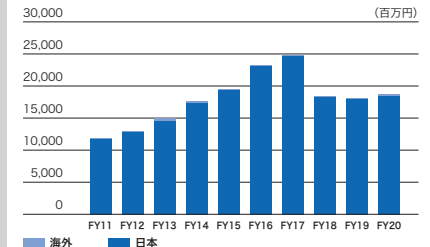
### 売上高・日本台数シェア

日本向け売上高は、需要が減少したにも関わらず、高付加価値商品の拡販に注力し、184億9千7百万円(前期比103.3%)となりました。海外向け売上高は、2億4百万円(前期比251.6%)となりました。この結果、高所作業車の売上高は187億1百万円(前期比104.0%)となりました。

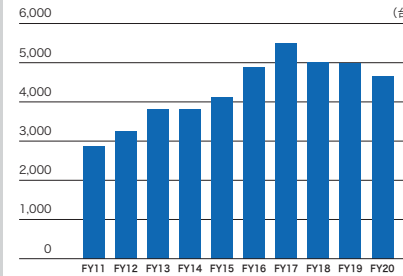
#### ■ 売上高(19年度・20年度比較)

	(百万円)			
	19年度	20年度	比較増減 金額	増減率
日本	17,905	18,497	592	3.3%
海外	81	204	122	151.6%
合計	17,986	18,701	715	4.0%

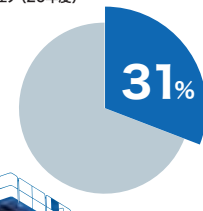
#### ■ 売上高(11年度~20年度推移)



#### ■ 日本需要(11年度~20年度推移)



#### ■ 日本台数シェア(20年度)



### 製品紹介



AT-320XTG

#### 高所作業車

「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。当社では、先進の制御技術で操作の簡便化、操作性の向上を推進しています。特に1つのレバーでデッキが垂直移動・水平移動できる世界初の「4軸協調制御」技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。



AT-200S



# 04 その他

Others

## 売上高

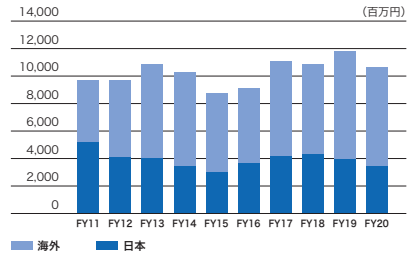
部品・修理他については日本向けが減少、海外向けは増加し、過去最高の売上高となりました。中古クレーン・商品も日本向け、海外向けともに減少し、合計の売上高は、385億9千3百万円(前期比104.4%)となりました。

### ■ 売上高(19年度・20年度比較)

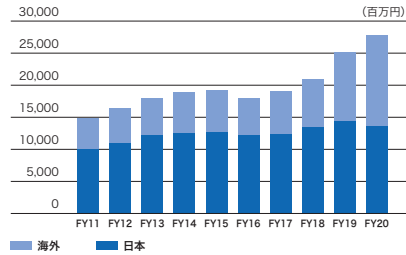
	19年度	20年度	比較増減 金額	増減率
中古クレーン 商品	11,821	10,649	-1,171	-9.9%
部品・修理他	25,161	27,944	2,782	11.1%
合計	36,982	38,593	1,611	4.4%

(百万円)

### ■ 中古クレーン・商品売上高(11年度～20年度推移)



### ■ 部品・修理他売上高(11年度～20年度推移)



## 四拍子そろったメーカー

当社は「商品力、製品品質、部品を含めたサービス力、中古車流動性」の四拍子そろったメーカーを目指しており、新製品の商品力、品質の向上はもとより、未永く製品を活用していただくための取り組みも進めています。それが部品を含めたサービス力の強化、中古車流動性を高めるための中古車価値維持・向上です。

製品のライフ・サイクル・バリューを高める取り組みの1つに、保守部品の供給があります。日本国内では、7拠点の部品センターと神戸にあるグローバルパーツセンターとの連携による最速での部品出荷のほか、長年の実績に基づいて担当エリアごとに需要の多い部品を常時ストックし、製品のダウンタイムの短縮の一翼を担っています。一方海外においてはシンガポールパーツセンターを設立し、日本・海外ともに更なるデリバリータイムの短縮を進めています。

また、お客様の修理コスト低減に貢献できるよう、再生事業にも注力しています。2017年には、再生取扱部品の認知度の向上とストックビジネスの拡大を目的に「タダノ再生ロゴマーク」を制定しました。軌道陸上兼用車など特殊製品のリフレッシュ、部品の調整や修理、生産終了部品の代替品の手配などにより、ダウンタイムの短縮や修理費用の抑制を実現しています。製品寿命を長く、価値を維持するだけでなく、環境にも優しい取り組みです。これらの取り組みは、当社製品の中古車が高く評価されている要因の1つとなっています。



## 感動サービスの提供を目指して

クレーンのダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結するため、当社では「感動サービスの提供」に取り組んでいます。ピフォーサービスでは、HELLO-NETを活用した、お客様、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスバック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「TADANOエンジンケアバック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による故障の減少を目指しています。

アフターサービスでは、日本は10支店と23営業所に加え、全国345か所の認定サービス工場と898名の認定サービスエンジニアによるサービス体制を構築しています。海外では直接サービスに加え、140か所を超える代理店が世界をカバーしています。その他体制整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地開催だけでなく、IT技術を取り入れWEBを活用し遠隔地からでも受講を可能とした技術講習会のほか、トレーニングセンターでの体系的、かつ先端技術を取り入れた教育で、日本・海外のサービスエンジニアの人財育成を進めています。

また、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。



VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育